

## リコンフィギャラブルシステムとその応用論文特集の発行にあたって



リコンフィギャラブルシステムとその応用論文特集編集委員会

委員長 天野 英晴

リコンフィギャラブルシステムは、FPGA (Field Programmable Gate Array) を代表とするプログラマブル素子を利用することで、ハードウェアの高速性とソフトウェアの柔軟性をともに実現することを主なねらいとしている。最近のFPGAの驚異的な発達と普及に加えて、マスク代と設計費の高騰によりLSIの開発が困難になったことから、急速に関心が高まり、関連する技術者、研究者の数が増加している。

リコンフィギャラブルシステム特集号は、これらのプログラマブル素子の応用、アーキテクチャ、設計技術、デバイス技術などの最新の研究を発表する場として、リコンフィギャラブルシステム研究会を中心に定期的に企画している。2006年6月に邦文誌、2007年12月に英文誌に続き、本来もう少し早めに企画する予定であったが、リコンフィギャラブルシステム研究会委員長であった私の動きが鈍く、やや間隔が空いてしまったことをお詫びしたい。22編の投稿（うちレターは2編）を頂き、9編の論文と1編のレターが採録となった。分野の内訳は以下のとおりである。

- デバイスアーキテクチャ … 3編
- システムアーキテクチャ … 1編

- 設計技術 … 3編
- 応用技術 … 3編

リコンフィギャラブルシステムはまだ若い研究分野であり、実装中心の研究が多い一方、アイデアは斬新だが実質的な効果が伴わない研究など、ジャーナルペーパーになりにくいという問題点があった。本特集号においては、なるべく論文の良い面を見て積極的に採録する方針で編集委員会を運営したが、採択率は前回と同レベルにとどまった。研究としては興味深いのが、まだジャーナルの水準に達していないと判断された論文が、かなりの数あり、これらが掲載できず残念であった。定期的に同様の特集号を企画する予定なので、ぜひ利用して頂ければ幸いである。また、本特集号をお読み頂き、その研究内容に御興味をおもちならば、リコンフィギャラブル研究会に参加して頂きたい。一緒にこの分野をもり立てていきたい。

あまの ひでひろ  
天野 英晴 (正員) 1981慶大・理工卒。1986同大大学院理工学研究科電気工学専攻博士課程了。現在、慶應義塾大学理工学部情報工学科教授。工博。計算機アーキテクチャの研究に従事。

### リコンフィギャラブルシステムとその応用論文特集編集委員会

委員長	天野 英晴	
幹事	井口 幸洋・泉 知論・細川 利典	
委員	有本 和民・飯田 全広・一色 剛・井口 寧	
	上田 勝彦・梶原 信樹・佐藤 真琴・柴田 祐一郎	
	谷川 一哉・戸川 望・名古屋 彰・張 山 昌 論	
	堀 洋平・安 永 守 利	